

# 北光

第 150 号

平成23年8月5日

学部創立100周年記念行事のご案内



北光会 (<http://www.hokkokai.com>)

秋田鉱山専門学校  
秋田大学鉱山学部 同窓会  
秋田大学工学資源学部

## 目 次

秋田大学工学資源学部創立 100 周年記念行事のご案内	色紙	1
巻頭言	小松文雄	3
会長便り	菊地芳朗	4
平成 23 年度第 1 回理事会・通常総会報告		5
学部創立 100 周年記念事業報告		
寄附者御芳名		17
東日本大震災の一側面	松富英夫	19
文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞して	土岐仁	20
「土岐仁先生の文部科学大臣表彰をお祝いする会」の報告	田子真	21
「寄稿」前北光会会長 森泰氏追悼文		
森泰君を送る	高間久壽美	22
森泰前会長の訃報に接して	高梨辰治	23
「特別寄稿」		
東日本大震災時の津波来襲の体験	石川洋平	24
東日本大震災による被害状況をお知らせください		26
平成 23 年度北光会支部総会参加報告	神谷修	28
北から南から		29
秋田大学と資源開発国際協力	細井義孝	34
母校便り・会員便り		35
事務局から		37
訃報		38
編集後記		40
学部創立 100 周年記念寄附者御芳名		41

平成23年8月吉日

各 位

秋田大学工学資源学部  
学部長 小 川 信 明

## 秋田大学工学資源学部創立100周年記念行事のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

秋田大学工学資源学部は明治43年（1910年）に秋田鉱山専門学校として設置されて以来、本年をもちまして100周年を迎えることとなりました。これもひとえに関係各位のご支援の賜物として深く感謝しております。

このたび本学部の創立100周年にあたり、下記のとおり記念行事を開催いたします。ご多用中のこととは存じますが、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

敬具

記

1. 期 日 平成23年10月1日（土）

2. 記念行事

11:00～12:00 リニューアルされた鉱業博物館披露と記念碑除幕式  
場 所：秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館（2ページ案内図の①）  
※記念式典会場への移動は12:50に秋田大学正門からバスを準備しています。

13:30～16:30 記念式典  
場 所：アトリオン音楽ホール（2ページ案内図の②）  
内 容：記念演奏会、式典、記念講演会  
＜記念演奏会＞  
演奏：学部創立100周年記念行事・特別編成ストリング・アンサンブル  
指揮：秋田大学教育文化学部教授 四反田素幸氏  
＜記念講演会＞  
講師：DOWAホールディングス株式会社顧問 河野 正樹氏  
講師：株式会社秋田魁新報社代表取締役社長 小笠原直樹氏

17:00～19:00 記念祝賀会  
場 所：秋田キャッスルホテル（2ページ案内図の③）

祝賀会会費 5,000円（当日受付で申し受けます）

受 付 当日の受付はアトリオン内にて行います。記念式典では記念演奏会が行われますので、受付は式典開始10分前までに終了できるように、お早めにお済ませください。

お申し込み 同封のがきにて、8月31日（水）までにお申し込みください。  
なお、当日の昼食、交通、宿泊は各自でお手配願います。  
※昼食は、秋田大学生協内の食堂を利用することもできます。

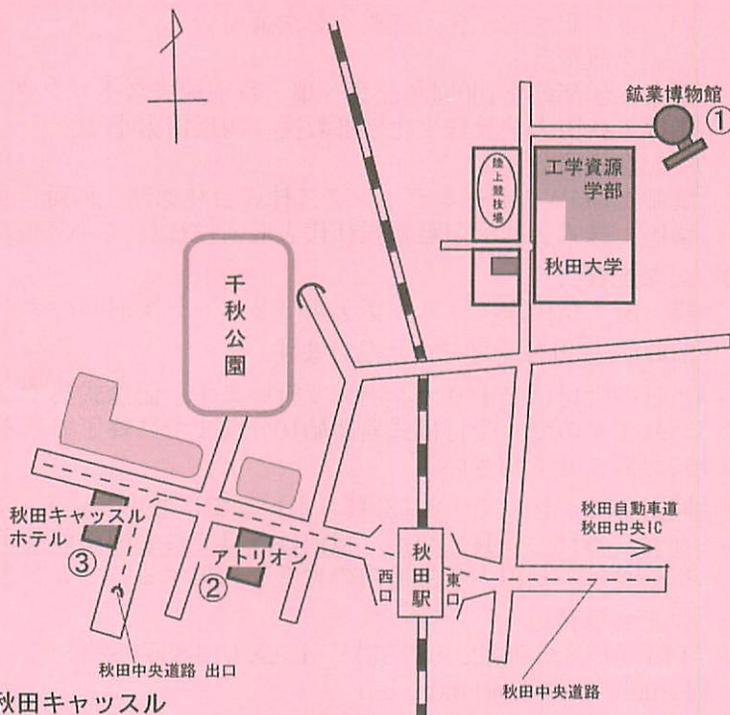
お問合せ先 北光会事務局  
TEL 018-835-9822, 889-2317 FAX 018-835-9822  
E-mail: info@hokkokai.com

※当日、多少のスケジュール変更があった場合はご容赦くださいますようお願いいたします。

## 〈記念式典等へのご案内〉

【博物館改装披露，記念碑除幕，式典，祝賀会】

区 分	会 場	式典等会場のホームページ及び交通アクセス
改装披露・ 記念碑除幕	①工学資源学研究科附属鉱業 博物館 住所 秋田市手形字大沢28-2 電話 018-889-2461	ホームページ： <a href="http://kuroko.mus.akita-u.ac.jp/">http://kuroko.mus.akita-u.ac.jp/</a> 交通アクセス： <a href="http://kuroko.mus.akita-u.ac.jp/about/accessJ.html">http://kuroko.mus.akita-u.ac.jp/about/accessJ.html</a> ・秋田駅西口バス乗場4番線 大学病院行乗車約10分～鉱業博物館入口下車～徒歩5分 ・秋田駅東口より徒歩30分
式 典	②アトリオン（音楽ホール） 住所 秋田市中通2-3-8 電話 018-836-7865	ホームページ： <a href="http://www.atorion.co.jp/">http://www.atorion.co.jp/</a> 交通アクセス： <a href="http://www.atorion.co.jp/access.html">http://www.atorion.co.jp/access.html</a>
祝 賀 会	③秋田キャッスルホテル 住所 秋田市中通1-3-5 電話 018-834-1141	ホームページ： <a href="http://www.castle-hotel.jp/">http://www.castle-hotel.jp/</a> 交通アクセス： <a href="http://www.castle-hotel.jp/accessinfo.php">http://www.castle-hotel.jp/accessinfo.php</a> ・JRをご利用の場合 秋田新幹線：東京→秋田=3時間49分／秋田駅より車で2分 ・旅客機をご利用の場合 羽田空港→秋田空港=1時間／秋田空港より車で30分 ・自動車をご利用の場合 秋田自動車道秋田中央I.C.より10分



●アトリオンから秋田キャッスルホテルまでは，徒歩約5分です。

## 「100周年を迎えて」

北光会副会長(兼)秋田支部長 小松文雄 (BS29M)



6・3・3・4の学制改革で、S24年に秋田大学鉱山学部が創設された第2期生として鉱山学科に入学したので、自己紹介の際には戦争中最も恐れられた「B-29卒」と言いながら当時を忍ばれる昨今です。

その頃は、秋田大学に隣接して秋田中学（現在の秋田高校）があり、柔剣道の教師は大学と兼務であったり、グラウンドの一角には桂林寮がある等、大学とは余り違和感がなく過して来たが、戦後進駐軍に校舎を接収され、各小学校に分散して午後からの二部授業や、秋田17連隊跡地の兵舎に移り、トイレのドア等を壊した薪で暖をとり、南京虫と同居したり、大学でも一般教養科目は学芸学部と共学で、旧女子師範の雨漏りの廃校舎での最低の環境であったが、男女共学を初めて体験したのはせめてもの慰めでもあった。

これに比べ50年後の手形キャンパスは、総べての面で余りにも恵まれており、内容的にも資源学に至っては飛躍的に発展し、世界からも注目を浴びる大学へと進展しつつあるのは決して過言ではないと自負している。

最初に北光会の仕事を手掛けたのは、40年前に80人程の北光会員の会費徴取と忘年会参加者を増やす為に、給料からの引去りを総務課に依頼した事で、現在でも秋田市役所は会費納入率100%を維持している。

その後北光会には、本部の監事を10年程担当したが、何時の間にか副支部長や支部長に決められて80才にもなったので、若返り人事を提唱していた所、鎌田副会長の急死により全学同窓会も含め副会長を兼務させられる事になった。幸いにも秋田支部3役の構成は、市の給料差引以来の同僚や、北光会本部役員の実験者等からなっており、

日中は現役なので連絡や書類は総べて連日メールで処理するのが通例で、役員会等の連絡にも利用可能な会員にはメールを活用している。各地区部会でも役員の中には必ずメールアドレスの所持者がいることが条件となっているので、時間と通信費の節約にもなっている。

今年度の事業としては、100周年を目途に永年懸案であった全県5地区部会とも足並みが揃い、持ち回りで地区巡りの会を観光のPRも兼ねながら計画しているので、全国の会員も家族共々ご参加下さる様お待ちしております。（「北から南から」をご参照下さい。）

本部総会は昨年度と2年連続で秋田市開催となったが、来年度も100周年記念大会との関連もあって秋田市で開催することが決まった。

最近特に役員の高齢化が進んでいる事もあってか、若年層の参加と会費の納入率が年々減少している。今迄の秋田支部役員は主に年功序列で決めていたが、選考委員会を発足させ、役員意志確認を書面等で行った所、約30%の役員から辞退の申し出があり、その補充は各地区部会の役員や平成卒の役員も含め、広範囲に新役員が誕生した。このことにより100周年の寄付の呼び掛けも広がったと言えるが、出発が一年程遅かったのが反省の要因となっている。

但し、秋田市内では市役所で建設関係の業務に携わって居た事もあり、業界に知人も多いので訪問も約40社に登ったが、建設業界の不況と震災に加え、医学部の寄付とも重なって予想を下回ったのが心残りとなっている。

震災への支援について支部例会に上ったが、仙台支部への連絡も儘ならない状況下で、本部で臨機応変に被災した在学生への支援を実施した事は正に的を得た方法であった。

今後共更に大学の運営と学生の指導には、時代に即応した人間の育成に期待しているので、北光会としても微力ながら協力したいと願っているのは、誰しも同感ではないだろうか？

### 「北光」第150号発行に思う

菊地芳朗 (GS34)



今回は悲しいお知らせから申さなければなりません。前会長の森 泰さんが、去る5月7日にお亡くなりになりました。森さんは全国の支部総会に出席されるなど行動力のあるお方で、北光会の発展に尽くされました。

一方、東日本大震災ですが、2名の会員が津波によりお亡くなりになったことが判明致しました。

お亡くなりになられた方々には、謹んで哀悼の意を表すると共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今皆様をご覧になっているこの「北光」が150号となりました。昭和28年4月6日に1号を発行してから58年で達成されました。

北光会は昭和3年に設立されました。時を同じくして「北光會誌」が発行され、昭和8年からは「北光會會報」と名前を変え昭和17年第26号まで発行されました。当時は戦時中のことで用紙の制限や印刷所の都合でこれ以後の発行は困難であったようです。戦後になり第1号を発行した昭和28年は新制大学の第1回卒業式の行われた年でもありました。当時の「北光」は「復刊第1号」で発行所は東京北光会でした。現在のように発行所が秋田になったのは昭和31年発行の第6号からでした。昭和35年の第19号から「復刊」の文字が消えました。この19号では創立50周年の記念事業が検討されておりました。今年創立100周年を迎えるにあたり、北光会も歴史を積み重ねてきたものと感慨深くなると共に今後の発展を願う次第です。

さて、東日本大震災ですが、北光会として被災された会員に対し、どのような支援が出来るか検討致しました。一つは、学生に対する援助です。3月の卒業式後に行う新会員の歓迎会を今年中止致しました。これにかかる費用は本来学生に使用するものであることから、これを被害を受けた

学生の援助金と致しました。100人余りの方がおり喜ばれたと聞いております。一方、会員に対してですが被害の状況は徐々に分かってきましたが詳しい状況を把握しておりません。「北光」4月号は被災地の会員に届かず約160通が戻ってきております。本号に被害の状況を報告頂くようお願いしてあります。この結果を踏まえて援助金の募金など具体的な対応を検討することで、総会の了承を得たところであります。

次に創立100周年の募金ですが、最初に多くの会員の皆様からご芳志を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

6月30日現在：4,274名(件) (分割件数612件を入れると4,886件) 総額：1億8,698万円で、その内訳は

企業	業	244社	5,529万円
篤志家		20名	150万円
教職員		167名	1,042万円
学部後援会		12回	2,922万円
北光会		3,831名	9,055万円

となっております。募金目標額3億円に対する達成率は62.33%となっております。

一番遅れております企業募金ですが、この度の災害により企業訪問など積極的な募金活動を一時控えておりましたが、地震・津波被害については第1次補正予算が通り、復旧・復興に向けて動き出したこと、原発事故については収束に向けた工程表が発表されたことから役員に卒業生がおられるなど、人間関係のある企業には募金活動を再開することにし、5月より始めております。

募金期間も残すところ2ヶ月となりました。北光会は目標額1億円で9割を超えましたが、尚一層のご支援をお願い致します。

例年通り「北光」8月号(本号)に趣意書を同封してあります。

創立100周年記念式典・祝賀会も近づいてまいりました。ご案内をご覧の上皆様の参加をお待ちしております。

北光会は皆様の会費で維持されております。会費納入率の向上にご協力下さい。

— 編集後記 —

3月11日に発生したマグニチュード9.0の大地震。それに伴う津波による東日本大震災は東北から関東にかけて甚大な被害をもたらしました。宮城、岩手、福島を主としてお亡くなりになられた方は15,000人を超え、行方の分からない方も未だに7,000人以上おられるようです。加えて東京電力福島第1原子力発電所のトラブル等もあり、未だに避難生活を強いられている方は11万人を超えるようです。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。また、震災後にお送りした「北光」の4月号が160部ほど戻ってきました。ご自宅等が被災され、避難されているのではないかと心配しております。安否等お分かりになる方がおられましたら、是非、北光の編集部までお知らせください。

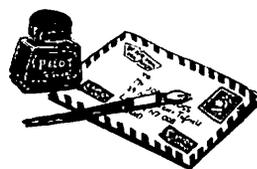
地震当日の秋田市は震度5強の揺れを感じ、すぐに停電、断水となりました。建物内にいた学生、教職員もすぐに指定の避難場所へ移動し、無事を確認しました。翌12日は後期日程試験が予定されていたため、学内には下見に来た受験生も多く見られましたが、みな無事に避難する事ができ、建物へも大きな被害はありませんでした。停電は12日夕方頃には解消しましたが、後期日程試験は暖房も照明もない状態で行われました。学内は現在も節電対策として、空調、エレベータ、自動ドアを止め、照明を半減した状態で講義や研究を続けています。

今回皆さんにお届けする、「北光」の8月号は区切りとなる150号となりました。昭和28年に創刊号が発行されてからおよそ58年が経ちました。また、100号が発行されたのが平成6年でしたから、それから17年が経ったこととなります。この記念すべき150号に、本学機械工学専攻の土岐仁先生の文部科学大臣表彰科学技術賞受賞のご報告が出来たのは、大変うれしいニュースであると思っています。土岐先生が推進してこられた数々の宇宙イベント、ものづくり教育の推進は非常に高い評価を受けてお

り、工学資源学部のメイン事業の一つとして引継がれております。

次号はいよいよ100周年記念号となります。今年4月からは編集委員のメンバーもだいぶ変わりましたので、フレッシュな「北光」をお届けできるよう頑張っていきたいと思います。

鈴木 雅史 (ES60)



発行所 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
秋田大学工学資源学部 北光会  
URL: <http://www.hokkokai.com>  
E-mail: [info@hokkokai.com](mailto:info@hokkokai.com)  
電話 018(835)9822  
018(889)2317  
FAX 018(835)9822  
振替 02510-5-1231

発行人 神谷 修(MS51)

編集委員

鈴木 雅史(ES60)	佐藤比奈子(AH6応)
山下 剛司(RH4)	近藤 良彦(FH5)
長谷川 崇(QH15)	横山 洋之(DH1)
長縄 明大(PH2)	ガゼル ひとツル(EH12)
鈴木 雄(CH20)	

北光会事務局

事務局長	神谷 修(MS51)
庶務担当理事	麻生 節夫(HS52)
会計担当理事	五十嵐 隆治(ES49)
ホームページ担当理事	横山 洋之(DH1)
コンピュータ担当理事	玉本 英夫

事務室 遠藤 福子、佐々木 静子  
印刷所 秋田活版印刷株式会社

# 工学資源学部創立100周年 記念事業達成に向けて ～四回目のご協力依頼～

創立100周年記念会会長(秋田大学長) 吉村 昇  
創立100周年記念会副会長(工学資源学研究科長) 小川 信明  
創立100周年記念会副会長(北光会会長) 菊地 芳朗

今年3月11日に発生した地震・津波・原子力発電所からの放射能漏れ、による未曾有の災害は特に東北地区の太平洋岸を中心に甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた人々の中には多くの同窓生やそのご家族の方々も多いと思われます。被害に遭われた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

ところで、頭記の学部創立100周年記念事業は、10月1日の記念式典の日まであと2ヶ月未満を残すだけにせまっています。この間、多くの教職員・同窓生の献身的な努力により、募金額は企業の不況に伴う障害にもかかわらず、今年6月末日で目標金額の約6割(総額186,978,556円)に達する金額を頂いております。特に、この募金額の中で目覚ましいことは当北光会員のご協力であり、目標の約90%、3,831件90,550,056円に到達しているのが現状です。

これに合わせて、現在学内では、鉱業博物館のリニューアル工事が5月初旬より始り記念式典に参加される各位にご披露できるように鋭意進められております。また、これと並行して100周年記念誌の編集・印刷、記念式典の計画・実施要領、主に県民の皆様への学部のPR事業などの計画が立案され実行される予定です。

このように目標額には残念ながらやや少ない募金額ではありながら、現実にあわせた計画を実行しようとしておりますが、やはり、いま少しの各位のご協力をお願いいたしたく、改めて再度のお願いを申し上げます次第でございます。

現在は、新聞の全国紙にいわゆる旧制の帝国大学といわれるところでも全面広告を出し、少しでも良い学生を集めようと努力している時代になりました。良い大学と言われる条献は設備・教員・学生の3者がそろうことによって達成されると考えますが、特に、当学部はこれからの日本の行末を考えるならば、資源系の特徴を生かした部門を持ち、発展途上国の留学生を十分に教育できる環境を作ることが大切であると考えております。そのために新しい組織「国際資源学教育研究センター」を立ち上げ、ボツアナ・モンゴル・カザフスタンなどの大学とも提携を行っております。今回の記念事業は正にこの目的に沿った事業内容を主眼とするものであることは同封の趣意書を御覧になればご理解いただけると存じます。

各位にはそれぞれのお考えやご事情もあたりとは存じますが1口5千円の金額にとらわれることなく、小額でも結構ですから出来るだけ多くの諸氏のご協力を期待して最後のお願いといたします。

[追記] 趣意書と振替用紙はこれまでのご協力の有無に関わらず全員の方々に送りいたしております。この意図は三回目のご協力依頼に書かれたものと同様ですが、同級生やお知り合いの方で未だ募金をされておられない方々へのPR活動にご使用頂ければと考えております。この点をどうぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

# 学部創立100周年記念 寄附者御芳名

45ページ以降に取めました企業を含む寄附者の御芳名は、平成18年7月1日から平成23年6月末日までに受け付けた分です。

ご寄附を頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

## 寄附金

累計件数 4,886件  
累計金額 186,978,556円  
(平成23年6月30日現在)

### 創立100周年記念事業寄附金納入状況 (平成23年6月30日現在)

区 分	募金者数	金 額(円)	目標額(円)	目標達成率
名誉教授	38	5,685,000	50,000,000	106.66%
教員 OB	10	490,000		
職員 OB	52	795,500		
教員	117	16,817,715		
職員	27	323,000		
工学資源学部後援会	12	29,220,000		
教職員小計	256	53,331,215		
企業	244	55,285,000	150,000,000	37.86%
篤志家	20	1,505,000		
企業等小計	264	56,790,000		
鉱山専門学校卒業生 (1914年～1951年) (大正3年～昭和26年)	816	18,824,394	100,000,000	76.86%
鉱山学部卒業生 (1953年～2001年) (昭和28年～平成13年)	2,638	53,349,987		
工学資源学部卒業生 (2002年～現在) (平成14年～現在)	259	2,846,475		
北光会クラス会等	39	1,813,485		
北光会準会員	2	23,000		
北光会員小計	3,754	76,857,341		
寄附金合計	4,274	186,978,556	300,000,000	62.33%

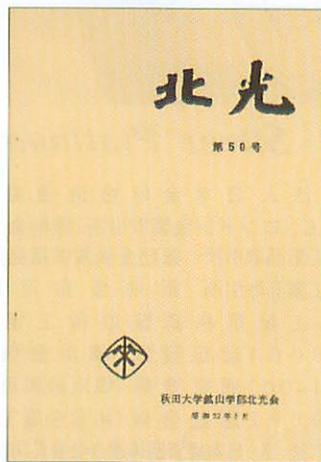
※分割募金者数612件は除く

「北光」は回を重ね、平成23年8月号で第150号を数えることになりました。  
懐かしい節目の号(1・50・100・131号)を下記にご紹介いたします。



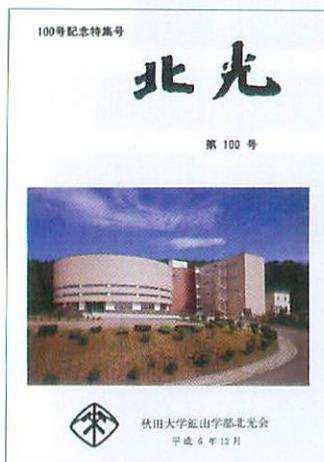
昭和28年4月6日「北光」復刊第1号発行  
(東京北光会より発行)

◎B5版“薬半紙”10ページ。紙質が古く痛んでおり、補修された貴重な1号です。  
☆当時の会長 大河原三郎氏(冶金大正4年卒)より再刊の喜びとして挨拶、会員の動向や会費納入者氏名が掲載されております。



昭和52年5月「北光」第50号発行

◎A5版28ページ 表紙：無地  
☆北光会会長：西 武雄氏(冶金大正10年卒)就任の紹介、梅津良之先生学部長退任・木村誓先生学部長就任挨拶などが掲載されております。



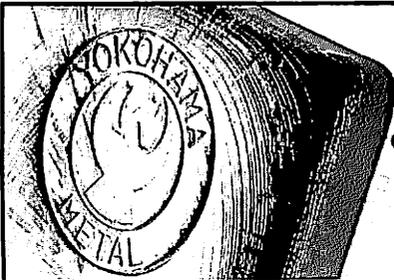
平成6年12月「北光」第100号発行(特集号)

◎A5版110ページ(巻末に附属鉱業博物館創立30周年記念事業報告35ページ)表紙写真は「平成6年秋、新装なった鉱業博物館」  
☆北光会会長 狩野豊太郎氏(採鉱昭和18年卒)の挨拶、特集として「卒業生からの声」「研究室紹介」が掲載されております。



平成17年4月「北光」第131号発行

◎B5版40ページ「北光」本誌のサイズが大きくなりました。表紙写真は「平成16年度秋田大学卒業式終了後の喜びの風景」従来のA5からB5にサイズが大きくなり読みやすくなったと好評を得ました。  
☆北光会会長 菊地芳朗氏(鉱山地質昭和34年卒)の「会長便り」は現在も連載中。「個人情報保護法」施行に基づく北光会の方針、「北光景」の名称存続署名運動の呼びかけ、などが掲載されております。



# 横浜金属株式会社

終わりのない鉱脈は、都市にある。

純銀  
999.9

**Gold Silver Platinum Palladium Rhodium Ruthenium**

- 社団法人日本金地金流通協会正会員
- L.M.E.(ロンドン金属取引所)銀地金公認ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金受渡供用品指定ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金指定鑑定業者
- 日本工業規格認証取得工場(銀地金)
- ISO9001認証登録(横浜金属株式会社)
- ISO14001認証登録(横浜金属商事株式会社)
- ISO9002認証登録(裕昌金属工業株式会社)
- 社団法人日本経済団体連合会会員(横浜金属株式会社)

**貴金属 精製・精錬**

**貴金属 歯科材精製・材料販売**

**貴金属 工業材料**

**貴金属 宝飾品加工販売**



YOKOHAMA METAL CO.,LTD.

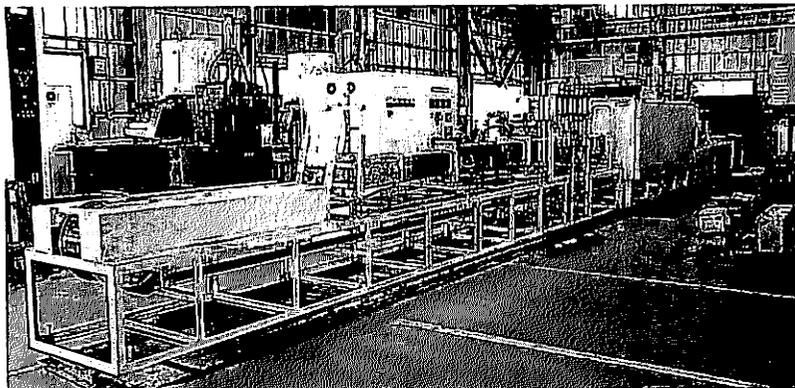
## 横浜金属グループ

横浜金属商事・JCY・裕昌金属工業(韓国)

本社/〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台3-5-2 Tel 042(773)4411 Fax 042(773)4775  
<http://www.yk-metal.com>

**ステンレスの光輝焼鈍・硬化処理**

**精密鍛造の光輝球状化焼鈍**



株式会社 **サーマル**

〒173-0014 東京都板橋区大山東町38-8

Tel.03-3962-4011 Fax.03-3963-0694

URL <http://www.e-thermal.co.jp> E-mail [thermal1@sepia.ocn.ne.jp](mailto:thermal1@sepia.ocn.ne.jp)